

修士論文発表会
<p>18世紀の造園計画からみるシェーカー・ヴィレッジのランドスケープ</p>
<p>中谷研究室 修士2年 石原早織</p>

目次構成

【序論】

第1章 本研究について

- 1-1. 研究背景
- 1-2. 研究目的
- 1-3. 研究方法
- 1-4. 既往研究

【本論】

第2章 18世紀イギリスの造園と自然に対する意識

- 2-1. はじめに
- 2-2. 18世紀イギリスの造園
- 2-3. 自然に対する意識
- 2-4. 小結

第3章 フランス 貴族階級における実践とフェルメ・オルネ

- 3-1. はじめに
- 3-2. コルムノンヴィル
- 3-3. シャンティイ城のアモー
- 3-4. ラ・ショミエール・オ・コキヤージュ
- 3-5. メダム・タントゥ
- 3-6. ル・アモー・ドゥ・ラ・レーヌ
- 3-7. 小結

第4章 アメリカ シェーカー・ヴィレッジにおける実践

- 4-1. はじめに
- 4-2. Watervliet, New York
- 4-3. Mount Lebanon
- 4-4. Enfield, Connecticut
- 4-5. Canterbury
- 4-6. Enfield, New Hampshire
- 4-7. 小結

第5章 考察：理想郷を求める人々

【結論】

第6章 結論

第1章 本研究について

研究背景

新型ウイルスの蔓延に伴い、人々の暮らし方が見直される中で、再び郊外や地方都市など自然あふれる環境への憧れが高まっている。自然を感じられる環境で過ごしたいという人間の欲望は、都市化が進む近代においてより切迫した顕著なものとなっているが、古くは平安時代の寝殿造にもその願望は感じ取れる。都市を形成し組織的な生活を初めて以来、人々が抱き続けてきた自然への憧れは自然を近くに感じられるような小さなまち(理想郷)を形成しようとする実践としてある種反発として表出してきた。その中でもアメリカで一から自分たちで理想の暮らしを実現しようとしたシェーカー・ヴィレッジを扱い、現代において理想的な暮らし方を獲得するための手がかりを得たい。

研究目的

シェーカーの建築やコミュニティの計画、実践に関しては、それぞれの建築に着目した研究や、シェーカー自身の思想や教義と照らし合わせた研究、アメリカにおけるフロンティア思想や西漸運動などの影響に着目した研究が多く、イギリスの思想との関連についての研究は少ない。

本研究は18世紀イギリスの造園計画や自然に対する意識の影響の中で発展していったフランスのフェルメ・オルネとシェーカー・ヴィレッジを比較することで、シェーカー・ヴィレッジの形成に影響した要因を探ることを目的とする。

研究方法

本論文の主な研究方法は、関連文献を用いた情報の整理作業と、それぞれの計画の配置図、パースを用いた分析作業である。まず、背景となる18世紀イギリスの造園に対する思想、態度および、自然に対する意識について文献調査をもとにまとめる(第2章)。続いて、フランスの貴族階級における実践と、アメリカのシェーカー・コミュニティにおける実践に関して、建築物の種類、配置を中心に

構成を分析する(第3章、第4章)。最後に、シェーカー・ヴィレッジの形成に影響した要因について主に18世紀イギリスの造園の潮流に関して考察する。

既往研究

シェーカーの建築やコミュニティの計画、実践に関する研究として、以下のものが挙げられる。

Julie Nicoletta, The Architecture of the Shakers (the Norfleet Press, 1995)

シェーカーの建築物に関して実地調査をもとに網羅的にまとめた研究。シェーカーの建築やデザインがモダン・デザインに強い影響を与えたとする一方で、ただ単にシンプルで素朴なだけではなく、シェーカーの発展とともに生活や必要な要素が変化し、それに合わせて建築も変化してきたと指摘する。

Paul Rocheleau, June Sprigg, David Larkin, Shaker Built: The Form and Function of Shaker Architecture (The Monacelli Press, 1994)

アメリカやヨーロッパ、日本などにも影響を与える、アメリカの至高のデザインであるシェーカーの建築の形態と機能に関して、教義との関連に着目して述べた研究。

Scott T. Swank, Shaker Life, Art, and Architecture (Abbeville Press, 1999)

カンタベリーのシェーカー・ヴィレッジの責任者(Director)である著者が、それぞれの共同体の資料などに基づいた徹底的な調査と現存する25の建築の実地調査により、共同体の構造について論じた研究。シェーカーの建築やデザインにとどまらず、生活や教義など様々な要素を網羅的に扱っている。

Julie Nicoletta, The Architecture of Control: Shaker Dwelling Houses and the Reform Movement in Early-Nineteenth-Century America, Journal of the Society of Architectural Historians Vol.62, No.3, 2003

シェーカーの共同住居に着目し、人々を管理、監督する建築について分析し、建国初期(the era of the early republic)の再建の文脈で捉え直す研究である。シェーカーの建築が彼らの生活やシステムを持続する上で重要な役割を担っていたことを指摘する。

Julie Nicoletta, The Gendering of Order and Disorder: Mother Ann Lee and Shaker Architecture, The New England Quarterly, Vol.74, No.2, 2001

シェーカー・コミュニティが形成されてからアン・リーの死後反映していくまでの過程において、シェーカーの建築において一つの大きな特徴である男女を分離する空間が実現されていく展開をまとめた研究。

Lauren A. Stiles, The Mythical Structure is Created: Planning and Construction of the Center Family Dwelling House, Mount Lebanon, 1856-1868, American Communal Societies Quarterly Vol.2, No.1, 2008

Mount Lebanon of the Center Family で建設された共同住居が完成するまでの12年の間の記録である。計画初期案や変更された計画の詳細に加え、設計や建設に関してのシェーカーの意思決定の方法が読み取れる。

中島卓也「シェーカー・コミュニティの共同住居における空間構造の変遷と連続性」(2018)

シェーカー・コミュニティの共同住居の空間構造についての分析をもとに、年代・地理的要因による差異・傾向等を明らかにするとともに、その変遷と連続性について考察する研究である。シェーカー・ヴィレッジの建物群の中でも共同住居に着目し、共同体の発展とともに段階的に発展することで徐々に構築されてきたと指摘している。

第2章 18世紀イギリスの造園と自然に対する意識

第2章では、18世紀後半のイギリスにおける造園の潮流と、同時期にフランスやアメリカなどでも高まっていた自然に対する意識について扱う。

18世紀後半のイギリスにおいて、自然の風景を鑑賞するためのガイドブックや紀行文学の出版が流行した。(岩井茂昭「イギリス風景式庭園と「ピクチャレスク」の概念」近畿大学教養・外国語教育センター紀要。外国語編 3(2) 2013 (近畿大学教養・外国語教育センター, 2013) p.33

とあるように、18世紀後半のイギリスでは自然風景の鑑賞が流行し、ピクチャレスクという美的観点から風景を楽しんでいた。このような風景の鑑賞と並行して、自然の風景を人工的に作り出すイギリス風景式庭園の造園が流行した。その特徴は、

庭園からあからさまな人工性を排除し、庭園とその周囲の自然の土地が一体化した。庭園そのものが自然であるかのように技巧を凝らす点にある。(岩井茂昭「イギリス風景式庭園と「ピクチャレスク」の概念」近畿大学教養・外国語教育センター紀要。外国語編 3(2) 2013 (近畿大学教養・外国語教育センター, 2013) p.33

とされている。庭園と周囲の環境が連続して見えるように開放的な庭園が計画された。同時期に、フランスのジャン・ジャック・ルソーやアメリカのトマス・ジェファソンなど、自然主義的な思想が沸き起こった。

第3章 フランス貴族階級における実践とフェルメ・オルネ

第3章では、幾何学的で左右対称な秩序立った構成であった庭園が主流であったフランスで、18世紀のイギリス風景式庭園や自然主義の潮流が流れ込んだ際に実践された造園に関して扱う。

フェルメ・オルネ(Ferme ornée)

18世紀イギリスの造園家スティーヴン・スウィツァー(Stephen Switzer)が「装飾的な農場(ornamental farm)」を意味する語句として使用した。田園風景(実用的なこともある)を美しく配置、計画したものである。イギリス以外にも、フランス、ドイツなどにも同様の思想に基づいた庭園が存在する。

エルムノンヴィル(Ermenonville)

ジラルダン侯爵がルソーの『ジュリー』に描かれたクラランの「エリゼの園」に触発されて、1762年から1776年まで15年間にわたり、英国から呼び寄せた200人もの人たちを使い、スコットランドの庭園家プレーキヤーや建築家のジャン＝マリー・モレルなどの手助けを得ながら、整備させた(のちの)フランス風景式庭園。ルソーの死後、古代風の墓やスイス風の山小屋(シャレー)を建て装飾的な農場を作った。装飾的な側面が強いものの、Mill(製粉所)など農村らしい機能を模した構造物も存在する。それぞれの構造物は広大な敷地に点々と配置されており、景観上の装置としての側面が強いことは配置図からも見て取れる。

主要な道は庭園全体の軸線に緩やかに沿った構成だが、細部の小径は曲がりくねっている。放射線状の岐路も見られ、それぞれの構造物同士が様々なつながりおわされたネットワーク状の構成である。池や川も曲がりくねった有機的な形状となっている。

ル・アモー・ドゥ・ラ・レーヌ(Le Hameau de la Reine)

フランス国王ルイ16世王妃マリー・アントワネットのために、プチ・トリアノンの近くに作られた、主にフォリー(居住用ではなく装飾用の建物)で構成されたイギリス庭園式の庭である。建築家リシャール・ミーク (Richard Mique)によって設計されたフォリーは、Farm(農家)以外にも、Mill(製粉所)やDairy(乳製品製造所)などがあ

り、装飾用でありながらも農村として必要とされる機能に着想を得た構成となっている。それぞれの構造物は、池の周りを取り囲む有機的な形状の道に沿って配置されており、回遊的な構成である。構造物の周囲だけに着目すると、田畑が構造物に沿ったグリッド状に区切られており、建物ごとの小さい単位においては、幾何学的な構成も含まれていると言える。また、構造物の敷地周囲を囲むように道が作られていることや、池の片側に構造物が偏って配置されていることから、池の反対側から見た時の農村らしい景観のための装置としての側面が強いことがわかる。その一方で、それぞれの構造物に機能があてがわれ、近い距離にまとまって配置されていることは、より実際の農村に漸近した構成として捉えることができるのではないか。



図1 Ermenonville 配置図



図2 Le Hemeau de la Reine 配置図

第4章 アメリカ シェーカー・ヴィレッジにおける実践

第4章では、イギリス風景式庭園や自然主義の潮流が色濃くなっていく中18世紀末にイギリスを離れ渡米し、新大陸においてシェーカーが実践した計画に関して扱う。

シェーカー

クエーカー教より派生したシェーカー教は、アン・リー(Ann Lee)の指導のもと、理想の地を求めアメリカに渡り、多くのコミュニティを形成した。労働や生活のための営みも信仰的な活動の一部とし、生活全てを合理的にデザインしていった。

WaterVliet, New York

1775年にイギリスから渡米しはじめに作られたコミュニティであり、1938年まで続いた。Church FamilyやSouth Familyなどによって構成され、それぞれ住居スペースとなる Dwelling house や礼拝に使用する Meeting house、外部との取引などに使用する Officeに加え、家畜やハーブ、種子など生活に必要な営みのための様々な建物が建てられた。



図3 Mount Lebanon 配置図

Church Family の配置図を見ると、それぞれの建物を結ぶ中心となる道は、直角に交差しており、建造物もグリッド状の配置がされていることが分かる。それぞれの建造物の入り口は道に面しており、中心的な建造物は道を取り巻くように回遊的な構成がされている。

一方で、South Family の配置図を見ると、建造物の向きは全て揃っており生前と並んでいるが、それらの建造物を結ぶ道は必ずしも直角に交わっているわけではなく、曲線を描いている箇所も見られる。

Mount Lebanon

1787年にWatervlietに続き、2代目の拠点として形成されたコミュニティ。Church FamilyやSouth Familyなど5つのFamilyによって構成され、それぞれ住居スペースとなるDwelling houseや礼拝に使用するMeeting house、外部との取引などに使用するOfficeに加え、家畜用、作業用の建物が用途ごとに建てられた。

共同体の軸線となるような主要な道が通っており、ファミリーごとにその道に沿ったグリッドに従って、それぞれの建物を整列させていることが配置図からも分かる。

しかし、その軸線となっている主要な道は完全な直線ではなく、微妙に角度が少しずつ変化している部分があるため、ファミリーごとに微妙にグリッドの角度が異なっている。

また、ファミリーごとに設定されたグリッドに沿って、建物の向きが揃えられ、それぞれの小径も概ねそのグリッドに沿った直角に交わるもので構成されている。しかし、Church FamilyやNorth Familyなどの一部の小径は曲線をかきいたものも見られる。

また、マウント・レバノンでの5つのファミリーの計画と実践を通して、生産活動や経済活動に関してのノウハウが培われ、各地の共同体における規範となった。このとき、配置計画においても、何らかの規範が構築されたとしても不思議ではない。実際、ブラザー・ジョセフは「建物や道の配置に関して、「すべての道はまっすぐに、畑は正しく角型に、フェンスは一直線に造りなさい」と指導したとされる。

Enfield, Connecticut

1792年にジョセフ・ミーチャムの土地と資産を元に集結、形成されたコミュニティ。Church FamilyやSouth Familyなど3つのFamilyによって構成され、それぞれ住居スペースとなるDwelling houseや礼拝に使用するMeeting houseに加え、家畜用、作業用の建物が用途ごとに建てられた。

前述のコミュニティより規模が小さくなる影響もあり、それぞれのファミリーにおける建物の配置は、ファミリーが配置されている主要な道に沿って、大まかにはグリッド状であるものの、一部の建物はそれに則っていない。また、共同体内における各ファミリーの配置も、軸線に向かったものではないため、マウント・レバノンで見られたような全体的な統一性に欠ける。

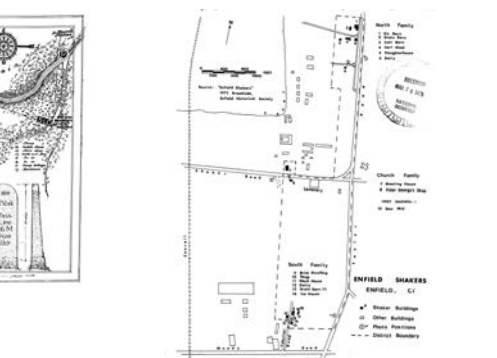


図4 Enfield, Connecticut 配置図

第5章 考察：理想郷を求める人々

1

2

第2章では、背景となる18世紀イギリスの造園に関する思想、自然に対する態度をまとめ、第3章、第4章では、その実践として、フランスの貴族階級におけるフェルメ・オルネとアメリカのシェーカー・ヴィレッジを分析した。これらの結果をもとに、シェーカーのコミュニティの初期の配置計画はどの程度イギリスの影響を受けていたのかを考察した。また、自然を感じられるような理想郷を求める人々の実践を俯瞰することで、現代における新しい暮らし方を獲得するための手がかりを探る。

共同体内の配置計画に関して、中心となる軸線が存在し、それに沿ったグリッド状に建物および道を配置することが、Millennial Lawsでも定められた主要となる規範であった。しかし、特に初期の計画においては、ファミリーごとで異なる軸線が採用されていたり、ファミリー内に、曲線を描いたようなグリッドを大きく外れる小径が見られたり等、整然とした配列から外れる要素も存在した。このような、計画を強く規定する「軸線」が存在する一方で、軸線とは無関係な、曲線などによって構成される有機的な要素が同時に共存しているという計画自体の構成は、フランスの貴族階級における実践であるフェルメ・オルネにおいても見られ、ひいては18世紀イギリスの造園思想や自然に対する態度とも対応させることができるだろう。

したがって、軸線によって規定される形式的な要素と、それとは無関係な不規則的な「自然な」要素とが、融合した構成の計画であるという点で、イギリスの影響を受けていると言える。

3

また、計画の構想段階において、重視された事柄・コンセプトに関しては、全てが信仰心に基づいて規範が定まっているシェーカー・コミュニティでは、神に対する意識が、ひたすら整然とした配列や、単純明快な構成へと向けられている。それは、合理的であることにより無駄を省き、なるべく多くの時間を神の為に使おうとする努力でもあった。したがって、シェーカーは彼らの信じる神のために意識的に「形式的」な様式を選択していたと言える。

一方、18世紀イギリスの造園思想においては、「自然」や「自然さ」こそ、神の存在を感じられる優れたものであると認識していたため、いかにして「自然さ」を失わずに済むか、本質を模倣できるかという点で努力が重ねられた。その一方で、古代の人々が最も自然を理解していたという考えのもと、古代の人々の様式を模倣することが自然を模倣することそのものであるとし、秩序正しく単純なパヴァーディオ主義が採用された。したがって、18世紀イギリスにおいても、結果として、神のために意識的に「形式的」な様式を選択していたと言える。

したがって、同じように「形式的」な様式を選択していても、神に対する意識には違いが見られ、シェーカーがあくまで神への信仰を軸として活動していたのに対して、フランスの貴族階級においては、神の存在を「自然」を通して見ていたのにも関わらず、「自然

さ」だけが重視され、追求されるようになり、本来のアプローチからは離れた形骸化したものとなってしまった。

第6章 結論

本論では、まず、背景となる18世紀イギリスの造園に対する思想、態度および、自然に対する意識について文献調査をもとにまとめた(第2章)。続いて、フランスの貴族階級における実践と、アメリカのシェーカー・コミュニティにおける実践に関して、建築物の種類、配置を中心に構成を分析した(第3章、第4章)。最後に、シェーカー・ヴィレッジの形成に影響した要因について主に18世紀イギリスの造園の潮流に関して考察した。

初期のシェーカー・コミュニティにおいて、18世紀イギリスの造園の潮流は、軸線によって規定される形式的な要素と、それとは無関係な不規則的な「自然な」要素とが、融合した構成の計画であるという点で、影響を与えていると考えられる。

参考文献

1

ニコラウス・ベヴスナー『美術・建築・デザインの研究 Ⅰ』(鹿島出版会,1980)
Julie Nicoletta, The Architecture of the Shakers (the Norfleet Press, 1995)

Paul Rocheleau, June Sprigg, David Larkin, Shaker Built: The Form and Function of Shaker Architecture (The Monacelli Press, 1994)

Scott T. Swank, Shaker Life, Art, and Architecture (Abbeville Press, 1999)

Julie Nicoletta, The Architecture of Control: Shaker Dwelling Houses and the Reform Movement in Early-Nineteenth-Century America, Journal of the Society of Architectural Historians Vol.62, No.3, 2003

Julie Nicoletta, The Gendering of Order and Disorder: Mother Ann Lee and Shaker Architecture, The New England Quarterly. Vol.74, No.2, 2001

Lauren A. Stiles The Mythical Structure is Created: Planning and Construction of the Center Family Dwelling House, Mount Lebanon, 1856-1868, American Communal Societies Quarterly Vol.2, No.1, 2008
中島卓也「シェーカー・コミュニティの共同住居における空間構造の変遷と連続性」(2018)

佐藤綾子「建築活動と出版物から見るシェーカー教 教義と実践の相互関係 -プレザント・ヘルにおける19世紀の活動を主な対象として-」(2018)
福居彩未「共同体の生存要因としてのコミュニティ構造 -シェーカー教コミュニティを通して-」(2018)

藤門弘『シェーカーへの旅』(平凡社,2000)

Kim A. McBride, The Importance of an Ordered Landscape at Pleasant Hill Shaker Village : Past and Present Issues, Archaeology and Preservation of Gendered Landscapes (Springer, 2010) pp.251-271

Robert P. Emlen, Shaker Village Views: Illustrated Maps and Landscape Drawings by Shaker Artists of the Nineteenth Century (University Press of New England, 1987)

Martha Boice, Dale Covington, Richard Spence, Map of the Shaker West: A Journey of Discovery (Knot Garden Press, 1997)

Barbara J. Little, Text-Aided Archaeology (CRC Press, 1991)

Julie Nicoletta, The Gendering of Order and Disorder: Mother Ann Lee and Shaker Architecture, The New England Quarterly , Jun., 2001, Vol. 74, No. 2 (Jun., 2001), pp. 303-316

Laborde, Comte Alexandre, de. Description des Nouveaux Jardins de la France et de ses Anciens Chateaux L' Iprimerie de Delance, Paris, 1808.

Janet R. White, The Jardin · Anglais as Public Image of the Self, Civil Engineering and Architecture 5(4) 2017, pp.125-133

Andrews Malcom, The Picturesque Vol.1 (Helm Information, 1994)

Charlesworth Michael, The English Garden Vol.1 (Helm Information, 1993)

Clark H.C. The English Landscape Garden (Pliades Books, 1948)

Ridgway Christopher & Williams Robert, Sir John Vanbrush and Landscape Architecture in Baroque England 1690-1730 (Sutton Publishing, 2000)

J. A. Sharpe, Early Modern England (Arnold, 1987)

Summerson John, Architecture In Britain 1530-1830 (Yale University Press, 1953)

Walpole Horace, Essay on Modern Gardening (The Kirgate Press, 1904)

安西信一『イギリス風景式庭園の美学』(東京大学出版会, 2000)

岩井茂昭「イギリス風景式庭園と「ピクチャレスク」の概念」近畿大学教養・外国語教育センター紀要. 外国語編 3(2) 2013 (近畿大学教養・外国語教育センター、2013) pp.33-47

斎藤信平「18世紀初頭英国における空間認識と庭園 ―英国風景庭園と理想的風景画の接点―」山梨英和短期大学紀要 35 2001 (山梨英和学院 山梨英和大学, 2001) pp.80(19)-68(31)

永見文雄, 「ルソーにおける自然と庭園 ―ロバール理解のために―」, 人文研紀要 (76) 2013, pp.89-131

中間眞司,「 J. J. ルソーの思想の原点「里山」」, Kyushu J. For. Res. No. 64 2011. 3, pp.10-16

図版出典

1

図1 Laborde, Comte Alexandre, de. Description des Nouveaux Jardins de la France et de ses Anciens Chateaux L' Iprimerie de Delance, Paris, 1808. p.95

図 2 CHATEAU DE VERSAILLES CENTRE DE RECHERCHE, http://chateauversailles-recherche.fr/English(2020/11/17 最終閲覧)

図 3 Library of Congress, Prints and Photographs Division, Histric American Building Survey, HABS

NY,11-NELEB.V.49-(sheet 1 of 1)

図 4 NATIONAL REGISTER OF HISTORIC PLACES INVENTRY – NOMINATION FORM No.10-300 (REV.10-74)

^[1] 1821年度版および1829年度版どちらのMillennial LawsのChapterVII It is considers good order to lay out and fence all kinds of lots, fields and gardens in a square from where it is practical, but the proportions, as to length and width may be left to the discretion of those who direct the work.と記載されている。